Ⅳ-48　景観の評価に関する２～３の考察

福　岡　大　学　　正　　吉田信夫　　福　岡　大　学　　○堤香代子
西日本工業大学　　正　　堤　昌文

１．まえがき

都市の景観を考えるとき，我々が都市の構造物を見てどのように感じるかを探り出すことが，重要な問題となる。つまり景観に関する人間の評価は，変化しやすい情緒的なデータになり，交通計画などの定量的なデータにくらべて不安定なものである。そこで，都市計画の評価に景観を取り入れ，『街づくり』に活かすためには，これらデータの計量化が必要となる。　これらの評価の方法の１つとしてＳＤ法　（Ｓｅｍａｎｔｉｃ　Ｄｉｆｆｅｒｅｎｔａｌ　Ｍｅｔｈｏｄ）があり，これまで，ＳＤ法を使用しての景観研究は数多くみられるが，本論では，被験者に福岡市内の２つの橋の同じスライドを見せ，２回の調査を行い景観への評価の動き，各橋のプロフィール，および評価基準の検討を行ったものである。

２．調査方法

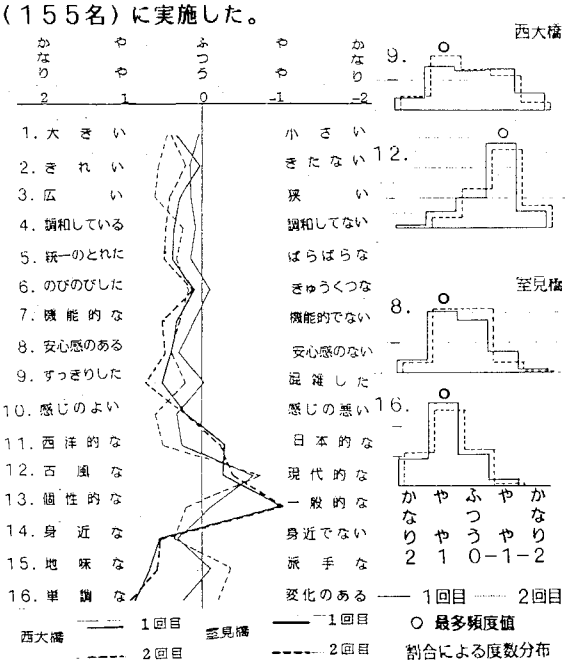
アンケートは，福岡市の西大橋（５６年完成の新しい橋で歩道が広くレンガタイルを敷き詰ている），室見橋（水銀灯のついたステンレス製の欄干がある）についてそれぞれ３枚づつスライドを見せ，図－１の１６の形容詞対ごとに５段階評価した。被験者は福岡大学工学部土木工学科３～４年の学生で，１回目を昭和５８年１１月７日（１４３名），２回目を同年１１月２８日（１５５名）に実施した。

３．分析方法

分析を，プロフィール曲線と因子分析法とで行う。

3-1. プロフィール曲線および単純集計による検討

図－１にプロフィール曲線と代表的な形容詞対の１回目と２回目のデータの平均とバラツキを示す。まず，両橋の１回目と２回目の比較を行う。西大橋では，平均の差の最も大きい形容詞対は３．「広い－狭い」の０．４５で，平均の差が０．２以下の形容詞対の数は８個である。一方，室見橋は全て０．２以下である。これを図－１（ｂ）の度数分布よりみると，最多頻度の割合が５０％を越える形容詞対の数は１回目，２回目ともに西大橋は１個で室見橋は５個であり，データの安定性は室見橋が良い。評点の平均値は西大橋で，２．「きれい　０．６」，３．「広い　０．６」，１０．「感じのよい　０．６」，１２．「現代的な　－０．７」などの評価が強い。室見橋は，９．「すっきりした　０．６」，１３．「一般的な　－１．０」，１５．「地味な　０．６」，１６．「単調な　０．９」となっている。１６の形容詞対を，良否の判断できる基本的な形容詞対１．～１０．と，良否の判断つきにくい嗜好に関する形容詞対１１．～１６．とに分けて考える。基本的形容詞対では，西大橋，室見橋ともほぼ同じ傾向で，両橋共に僅かながら良いイメージを与えていると判定できよう。嗜好に関する形容詞対では２つの橋に大きな違いがある。西大橋は「西洋的な」「現代的な」「個性的な」「派手な」「身近な」となっていて，斬新ではあるが親近感を覚える橋と判断できる。室見橋は「一般的な」「地味な」「単調な」で標準的な特徴のない橋と判断できる。



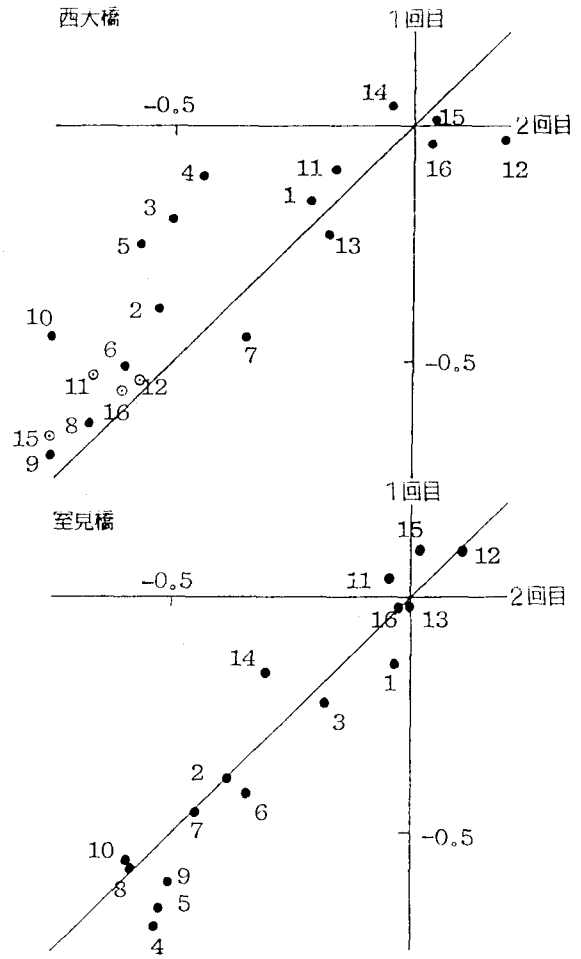
3-2. 因子分析

累積寄与率は，第１，２因子までで，西大橋が８６％，室見橋が８４％となり，２つの因子で各成分の該当

する対象への説明がつくと考えられる。この２つの因子について因子負荷量の大きい形容詞対を取り上げて見ると，西大橋についての第１因子は，「すっきりした－混雑した」「安心感のある－安心感のない」等で，「構造」を表わす因子，第２因子は，「地味な－派手な」　「西洋的な－日本的な」等で，「デザイン」を表わす因子，室見橋についての第１因子は，「調和している－調和してない」「統一のとれた－ばらばらな」等で，「調和」を表わす因子，第２因子は，「大きい－小さい」「広い－狭い」等で，「規模」を表わす因子と解釈した。

図-2の●印は，縦軸，横軸を第１因子と考え，⊙印は，第２因子と考えて，それぞれ１回目と２回目の因子負荷量の動きを見た。両者の因子負荷量の差が大きければ直線から離れ，差が小さければ直線付近に集まる。西大橋では，多少バラツキがあるように見えるが，差の大きな「広い－狭い」「調和している－調和してない」「統一のとれた－ばらばらな」などの形容詞対は，いずれも因子負荷量があまり大きくないので，因子には決定的な影響を及ぼさないと考えてよい。したがって，西大橋について，被験者の判断基準が２回ともほぼ同じであったと考えられる。室見橋では，全ての形容詞対について，１，２回目とも因子負荷量にかなりの整合があり，被験者の判断基準が２回とも同じであったと言える。ここで，因子負荷量が大きく，かつ，１，２回目の動きが小さい形容詞対を見ると，第１因子で両橋に共通して表われた形容詞対は，８，９であった。第２因子では，

西大橋だけに形容詞対１１，１２，１５，１６が表われた。これは，第２因子に嗜好的形容詞対が表われたために，標準的で特徴のない室見橋には，表われなかったと考えられる。



1．大きい－小さい
2．きれい－きたない
3．広い－狭い
4．調和している－調和してない
5．統一のとれた－ばらばらな
6．のびのびした－きゅうくつな
7．機能的な－機能的でない
8．安心感のある－安心感のない
9．すっきりした－混雑した
10．感じのよい－感じの悪い
11．西洋的な－日本的な
12．古風な－現代的な
13．個性的な－一般的な
14．身近な－身近でない
15．地味な－派手な
16．単調な－変化のある

図－２　アンケート調査１回目と２回目の因子負荷量の変化

４．結論

西大橋は，親近感を覚える橋で，「構造」「デザイン」に注目され，室見橋は，標準的な特徴のない橋で，「調和」「規模」に注目されたと判断した。また，１回目と２回目の判断基準がほぼ変化しなかったことから，被験者の評価が３週間の時間経過にほぼ影響されないことがわかった。プロフィール曲線と因子負荷量の比較では，２回のデータのバラツキが小さければ因子負荷量の変動も小さく，大きければ変動も大きくなるのではないかと推測できる。つぎに，形容詞対「安心感のある－安心感のない」「すっきりした－混雑した」は，橋についての基本的な形容詞対であると考られ，第２因子は，嗜好的形容詞対が表われるのではないかと考えられる。なお，同一被験者（１２９名）については，解析中である。

参考文献：奥野忠一他：多変量解析法，日科技連出版社，１９７２．１．